

## 新しい「はだし文化の創造」へ向けて

日本ビーチ文化振興協会 理事長 朝日健太郎

創立 10 周年を迎えた日本ビーチ文化振興協会であります。  
これまで多くの関係者の方々にご指導、ご支援を頂き本当にありがとうございました。

皆さん、毎日元気に過ごされていますか？

当協会の前理事長であります瀬戸山はビーチバレー競技を通じて世界のビーチを体験し、諸外国の魅力的なビーチがその地域に住む人々へ憩いと健康、そして環境貢献といった恩恵を与えるビーチ空間がそこに広がっていることを認識しました。

一方、当時の日本のビーチの現状はどうだったでしょうか。

夏休みの海水浴シーズンには賑わいをみせるものの、短い夏が終わればビーチは眠ってしまうものでした。それ以外にも、せっかくの美しいビーチが全く利用されていない国が日本でした。

世界と日本にあるビーチ利活用の格差を憂い、日本にも素晴らしいビーチが存在し、それらを活用する事が日本の活性化につながるという思いから、2002年瀬戸山前理事長が中心となって当協会を発足し活動を開始しました。

以来私も当協会の理事として、「四季を問わない海辺の通年利用、海水浴に限らない海辺利活用といった海辺文化を創造する」の理念のもと日本が元気を取り戻せたらという思いで活動してまいりました。

昨年、ビーチバレー競技に区切りを付け、第2の人生をスタートさせると同時にこの度当協会の理事長を拝命しました。

さあ、これからどうみんなを引き連れて前進していこうかとワクワクする毎日です。

「日本をビーチから元気していく」、競技を引退した私が目指すべき道はここにあります。

ビーチバレーを通じて経験できた素晴らしいビーチの世界を、次の世代へ向け残していきたい、そういう気持ちに至り、そしてこのタイミングで理事長と

いう大きな旗を持たせていただくことになりました。

まずこれからの10年、当協会の理念は「すべての道は、はだしに通ず、はだし文化の創造」といたします。

靴を脱いではだしになって、日本を元気にしていきます！

日本古来の生活習慣でもあるはだしの良さを再確認し、現代のライフスタイルの中にはだしになれる時間を取り戻していきます。

なぜ、はだしなのでしょう？

相撲のように日本古来の武道すべてはだしです。本来、日本人ははだし文化で育ち、はだし習慣から日々の活力を得てきました。

柔道、剣道といった武道も、はだしで立ち、戦い、礼節を重んじ、相手を思いやります。

日本人の本来の姿がそこにはあります。

もう一度はだしになって、日本人らしさを取り戻すきっかけを生み出していきます。

現代には裸足文化の実践の場として、ビーチバレーという素晴らしい近代スポーツがあります。

私は体育館のシューズを脱ぎ、ビーチへ飛び出しました。

バレーボール選手からビーチバレー選手へと転身したのです。

そこで出会ったビーチバレーです。

競技性の高さもありますが、毎日はだしになって砂の上で鍛錬を積むことが、日々の活力、健康、仲間との調和といった、シューズを履いていた時には経験できなかった世界が私自身に大きな影響を与えてくれたのでした。

そこでまず、はだしで活動できる環境整備を目指します。

はだしになれる最たる場所はビーチ、砂のある空間です。

これまでの当協会主催のビーチライフイベントを通じて感じたことは、子供たち、参加者の皆様が特に喜んで感動されている場面が、砂の上ではだしになって様々な体験をする瞬間だったということでした。

日常にない砂の感覚、靴を脱いで体感するはだしの感触です。

砂にまみれて楽しむのは子供の専売特許ではなく、大人の方々も童心に帰るきっかけともなり、はだしで子ども達と一緒に汗をかき運動不足の解消、そして何より、心が開放的になり、ストレスが改善される瞬間を体験できるのではないのでしょうか。

ビーチをはだしで過ごす、みんな笑顔になります。

ビーチが人間回帰の場、青少年育成の場として、これから明るく健康的な人生を送れる、そんな魅力的な空間になるように取り組んでいきます。

その一環で「都市型ビーチ広場」構想があります。

海岸にあるビーチはもちろん、海岸から離れた都市部でも気軽にはだしになつてもらふ都市型ビーチを、公園、広場、駐車場などのスペースに開設します。

これらは常設でも試験的な仮設でも対応できるものと考えています。

放課後に、アフターファイブに、普段の生活の中にはだしになれる空間がそこにある、そんな美しい街をつい思い浮かべてしまいます。

一方で海辺のビーチでは「365 日海の家」構想を目指します。

一年を通して、目的がなくてもビーチに行きたいと思えるような憩える場所、癒せる施設を設計していきます。

これからもビーチライフイベントの開催を通じ、ビーチ相撲、ビーチサン飛ばし、ビーチヨガといった誰でも気軽に参加できるイベントを提供し、オリンピック種目でもあるビーチバレー、そしてビーチフラッグスといったビーチスポーツイベントの開催を継続して行ってまいります。

加えて、新しいはだし文化として、汗をかかかない、ゆっくりのんびり癒しのビーチ利用も提案していきます。

ビーチで読書をし、バリスタの淹れるカプチーノで時を過ごす。

そこはビーチチェア、竹でできたパラソル、音楽、といった新しいカフェ文化が織りなすライフスタイルの空間です。

四季を問わず、一日中ビーチで時が過ごせるような場を提供していきます。

そして、ビーチカルチャーの充実が生活の一部となり、日々の習慣となるような環境づくりを目指していきます。

こうしたビーチカルチャーの実践に当たっては、ライフセーバーが 1 年 365 日常勤し、海辺の安全を守り、海辺の知識を啓発することも必須となります。

水難事故ゼロを目指し、真の意味での日本のビーチ文化振興を図ってまいります。

次に新しいコンテンツの提案です。

はだしで応援プロジェクト、「全国はだし1000人キャラバン」です。

様々な目的をもってビーチを訪れる方々にはだしを体験してもらうために、

みんなが気軽に楽しくはだしになれるような演出を行います。

「あなたは何人目のはだしメンバーです」というのはだしバッジを配布するなどして、ビーチの上ではだしメンバーの一員として楽しんでもらう企画です。

きっとビーチをはだして過ごす体験が良いものと理解できる一助になってくれるものと思います。

各ビーチではだしメンバー数をコンテストするなどして、全国的にはだしメンバーネットワークを形成していくのもいいのではないのでしょうか。

はだしメンバーギネス記録への挑戦なども将来的には考えていこうと思っています。

そして「ビーチシンボルの作製」を行います。

各ビーチのシンボルを作り、ゆるきゃらではありませんが、ビーチ単位でデザインを決定しシンボルとしてPRしていく。

それぞれ地域の特徴を反映するなど、幅広くPRできる材料として進めてまいります。

以上のように新しいはだし文化の創造を推し進めていきますが、教育的側面がある一方で、はだし文化によるビーチへの集客を図る側面も持たせます。

ビーチが地域の大きな観光資源として、観光産業の大きな柱となるための一端をはだし文化が担っていきます。

今後、当協会ではビーチ認定制度を設け、それぞれ、はだしメンバー数、施設設備、提供するソフトといった部分の規模や機能をもち合わせる海辺の総称をビーチと統一させることで、新しい言葉として定着させていきたいと考えております。

全国の海岸に思い思いのビーチ名が付き、日本地図の改訂が必要となるほど普及することを願っています。

ビーチバレー選手時代私のニックネームでありました“ライジングサン”という名のビーチ、「ライジングサンビーチ」を故郷熊本の有明海あたりにできないものかと期待に胸を膨らませております。

日本財団助成金事業として、「地域の海辺活用化基金」設立を目指した活動がスタートいたします。

この事業は、「日本の企業が海辺を支える！」をスローガンに日本財団様と協働で行います。

全国各地で海辺活性化に努めている団体では活動資金不足の問題が常にあるため、その運営資金を集める仕組みを構築し、賑わいのあるビーチパークづくりを応援していきたいと考えております。

以上、当協会ではこのように様々なはだし文化の創造、海辺の活用・振興を  
推し進めるために前進してまいります。

「日本をビーチから元気に」を合言葉に、今後とも当協会へのご指導、ご協  
力を賜りますようお願い申し上げます。

2013 朝日健太郎